

片平 貴宣 牧師

主の御名を賛美いたします。私が清水ヶ丘教会に遣わされて半年と少しが経ちました。温かく迎えてくださりありがとうございます。あるいは「もう一〇年も一緒にいるようだ」と言ってくくださる方もあり、主にある親しい交わりに感謝をいたします。

さて、自己紹介なども含めつつ、清水ヶ丘教会における今後の展望を記させていただきます。遣わされてまだ日も浅いので、具体的なビジョンとまではいきませんが、おぼろげながらも示されている事柄を分かち合いたいと思います。

まず示されておりますことは、音楽讃美を通しての伝道の業です。既に清水ヶ丘教会においてはゴスペルが取り入れられていたり、礼拝においても新しい讃美の時間を設ける計画が進められています。

讃美において私たちは一致することができません。年齢や立場、民族や言葉をも超えて、同じ主を讃美できる幸いを改めて覚えたいと思います。以前遣わされておりました石川県の恵泉教会で、新しい讃美を取り入れる取り組みをしたことがあります。

恵泉教会は能登半島の付け根あたりの田舎にあり、礼拝出席は一五名程度の小さい教会でした。讃美と言えば五四年版讃美歌か旧聖歌で、奏楽もリードオ

ルガンのみでした。決してそのような讃美が悪いとは思いません。が、讃美の豊かさであるとか、歌詞のわかりやすさ、幅広い年齢層への魅力等々は、さらに広げる余地があると感じさせられました。

そこで、恵泉教会に遣わされて翌年の教会総会において、いくつかの課題と合わせて、ワーシップソングを取り入れる事を提案しました。けれども私としてはごく普通に受け止めていたワーシップソングでしたが、地方の教会ともなると事情が違いました。そもそも「ワーシップソング」がどんなものなのかわからない、言葉自体も初めて聞く、といったような状況でした。

その他教会では、会堂建築という大きな目標もあり、目標として掲げておくだけの期間が四、五年続きました。その間も特別集会などで単発的にはワーシップソングを讃美する機会はありませんでしたが、なかなか「教会でやってみよう」とはなりませんでした。けれども会堂建築の働きもせず、仮会堂で礼拝を守っていた頃、ある婦人がワーシップソングに興味を持ってくださいました。さらにバンド演奏で讃美をしたいと言う願いもありましたが、「ドラムだつたら出来そうだ」とその方も願い出てくださいました。私自前の電子ドラムでもって練習をして備えてくださいました。

またある婦人は、「ギターは難しくて弾けないが、ベースだったら出来るかも」と言ってくださいました。ご自分でベースを買って練習して奉仕してくださいました。後に、小学校六年生の女の子とそのお母さんも楽器が出来ると言うことで加わってくださいました。幅広い年齢層でもって讃美をすることとなりました。

そして、二〇〇六年四月に行われた献堂式では、感謝会でもって教会員有志で結成したバンド演奏によるワーシップソングを讃美することが出来ました。それをきっかけのようにして石川地区の教会学校の集会や、中部教区婦人研修会、はたまた他の教会の讃美集会にも招かれて讃美奉仕をするまでに至り、通称「恵泉バンド」と呼ばれ、用いられていました。そのようにして私は、主にあつて一つとされて讃美を献げられる幸いを示されました。そしてなにも楽器が演奏できなくては、あるいは歌がうまくなくてはチームに入れないのかというと、そうでもないのです。ある方は手拍子で共に主を讃美し、またある方は讃美の歌詞を手話を参考にして振り付けにしてみました。様々な方法で主なる神さまを讃美できました。

新しい讃美を取り入れるに当たっては、不安や反発もありました。けれども実際にワーシップソングを取り入れていく中で思わされたのは、その大半は「未知のものに対する不安」であったということでした。練習などで知らない曲を讃美しましょう、となつた時に最初はあまり芳しい反応がありませんでしたが、いざ讃美して歌詞を味わいメロディーを口ずさんでみると、「これはよい讃美だ」と言つて気に入ってくださいることが度々ありました。

私たちも今、新しい讃美を献げようとしています。奉仕に当たる方々が主にあつて心を一つとし、用いられるように願います。主にある一致が讃美を通して明らかになることが出来るように祈つて参りましょう。